P8i

Upsampling SACD/CD Player

取扱説明書

Software Release 1.1x

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9

日本橋グレイス 1F

Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778

<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。
⚠注意：誤って取り扱うと、傷害又は物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線又は接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、又は当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

はじめに

dCS P8i をお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。

本機をご使用の前に、ステップバイステップガイドをまずご一読ください。本機を素早く、安全にセットアップする方法がかかれております。

本機は新しいバージョンのソフトウェアを **CD Update**（CD アップデート）によりインストールすることが出来ます。dCS 社は随時アップデートされたソフトウェアを提供致します。ソフトウェアの情報につきましては当社ホームページをチェックいただくか、販売店にお問い合わせください。

梱包

・dCS　P8i 本体
・取扱説明書
・コントロールサマリー
・電源ケーブル
・3-2 アダプタ
・ヒューズ（スペア 2 本）
・リモートコントロールユニット
・リモートコントローラー専用プラスドライバー

梱包には上記アイテムが含まれています。万一破損、欠品がありましたらすぐに販売店または当社にご連絡ください。開梱後のカートンケース、及び内部パッキン等は、後日の修理及びお引越等で輸送される場合に備えてお手元に保管されるようお勧めします。

本機の保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

安全上のご注意

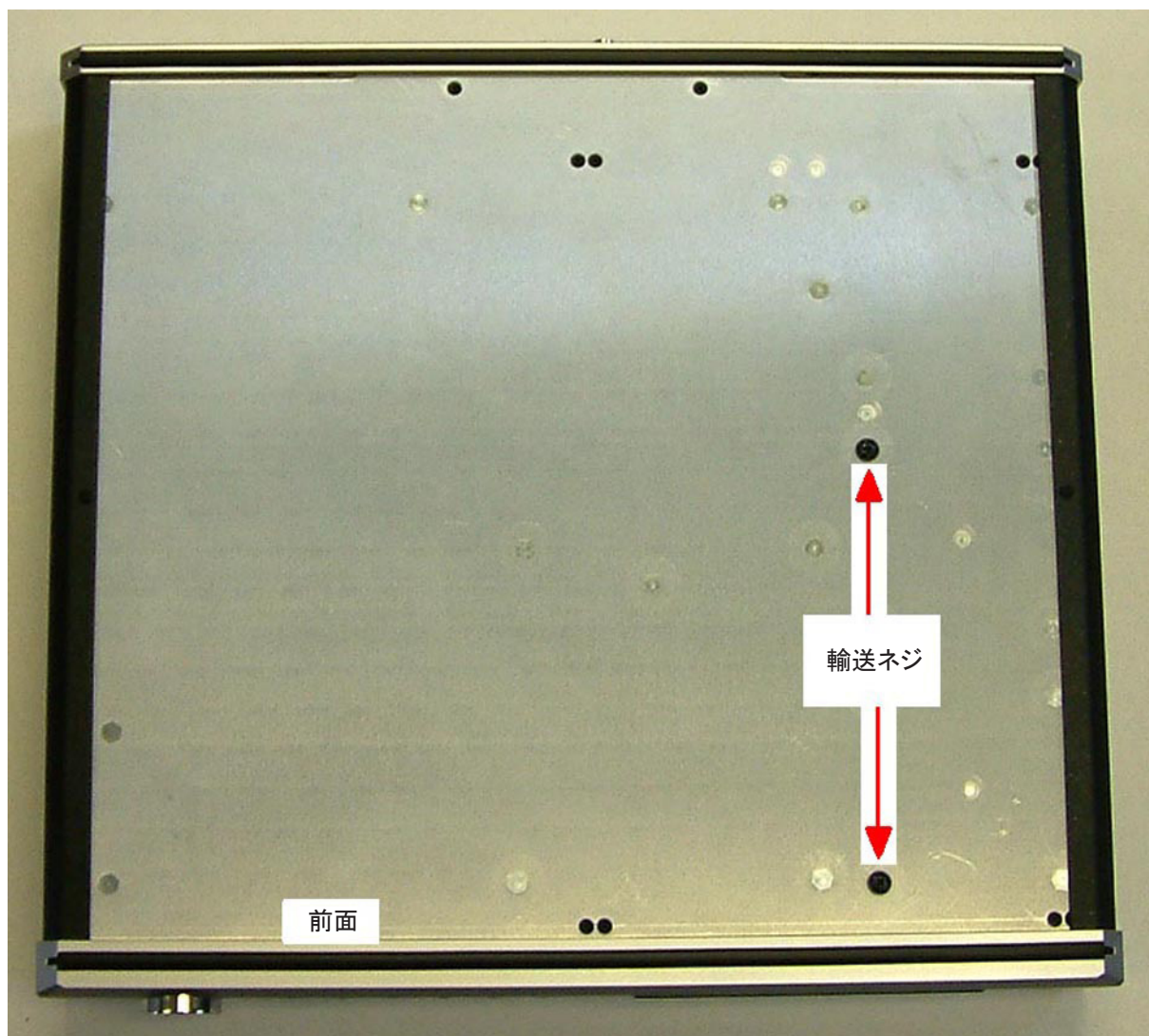
本機はユーザーご自身で修理できる製品ではありませんので、シャシーを開けることはおやめください。大変危険です。本機が修理を必要とした場合には、販売店、または当社へご連絡ください。

dCS P8i はヨーロッパ基準クラス1レーザー製品です。通常のご使用では、レーザー放射の危険はございません。

重要：トップカバーは dCS の認定したサービス員によってのみ開けることができます。カバーはレーザー放射や電気ショックからユーザーを守りますので、ご自身で開けないでください。

輸送用ネジを取り外す

輸送中の破損を防ぐために輸送用ネジが締められています。ご使用の前に取り外し、次の輸送のためにも保管しておいてください。

本機を取り出し、上部を下にして寝かします。2本の輸送用ネジを確認の上、ネジを外します。2本のネジの位置はしたの写真の通りです。

ネジはマイナスドライバー、もしくは硬貨（コイン）等で外してください。

重要：隣接する部屋より遠くへ本機を移動する場合、ネジを締めてください。ただし締めすぎないように気をつけてください。保証期間内であっても輸送用ネジが適度に締められていないまま届いた場合には、保証対象外となります。ご注意ください。

電圧

本機に電源ケーブルを接続する前に、ご使用の電圧と合致しているかご確認ください。リアパネルの入力部付近に電圧表示がございます。万一ご使用の電圧と異なって表示されていた場合には、ご使用にならないで販売店または当社にお問い合わせしてください。電圧が異なったまま使用されますと、本機は大きな損傷を受けることになりまして、それは保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

梱包されている電源ケーブルをご使用ください。異なるブランドのケーブルをご使用の場合には、販売店、もしくは当社にご連絡ください。本機とともに耐圧テストの上、ご使用いただけます。(電力安全基準法による)また、*電源ケーブルのコネクターの太さが 22mm 以上の物は使用できません*（下図参照）ので、ご注意ください。

注意：付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。

重要：常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

AC パワーコンディショナー

パワーコンディショナー、AC電源関連のクリーナーなどのご使用はお勧め致しません。

重要：AC パワーコンディショナーなどによる損傷、動作不良については保証対象外となりますので、ご注意ください。

本機の位置

本機をしっかりとした、共振のないベースに置いてください。お手持ち機器との距離も近い方が好ましい結果が得られます。ただし、本機をプリアンプ、チューナーの直接上か下に設置なさることはおやめください。
オーバーヒートを防ぐために、ヴェンチレーションのためのスペースを周りにお取りください。通常、上部、左右に 3cm 程は必要です。

ステップバイステップ

コントロールサマリーはメニュー構成とフロントパネルコントロールの詳細がでております。オリジナル（英文）のユーザーマニュアルは dCS ホームページから無料でダウンロードできます。

ステップ1ー P8i を CD プレーヤーとして使用する

外部 DAC をご使用する場合にはステップ2へ。

本機はバランス（XLR）出力 1 系統、アンバランス（RCA）出力 1 系統を備えています。

- ラインケーブルでどちらかご使用の出力端子とプリアンプ、またはパワーアンプの入力を接続します。バランス、アンバランス両方使用することも可能です。
- パワーアンプをスピーカーに接続します。

ステップ2ー P8i を CD トランスポートとして使用する

本機の DAC をご使用する場合にはステップ3へ。

16 ビット・44.1kS/s デジタルデータの CD を演奏の場合、**AES OUT**、**RCA OUT** の端子からそのデータが送り出されます。そのまま外部 DAC に送ることができます。

- 本機のリアパネルにある AES または RCA デジタル出力端子とご使用 DAC の入力端子をデジタルケーブルで接続します。
- DAC のアナログ出力端子とご使用のプリアンプまたはパワーアンプ（DAC がボリュームコントロール可能の場合に限る）に接続します。
- パワーアンプをスピーカーに接続します。

ステップ3ー P8i を DAC として使用する

P8i 内部のリング DAC を使用して、外部デジタル機器の信号をアナログ信号変換に使用できます。このバージョンでは、32、44.1, 48kS/s のサンプリングレートで、ワードレンスは 24 ビットまでロックします。

- 外部デジタル機器のデジタルアウトから本機の **AES IN** または **RCA IN** に接続します。適切な 75Ω デジタルケーブルをご使用下さい。両方のデジタルインプットに接続することも出来ます。
- アナログ出力をプリアンプに接続します。
- パワーアンプをスピーカーに接続し、使用できる状態となります。

ステップ4ーパワーアップ

・リアパネルの電源ケーブル入力端子と付属の電源ケーブルを接続します。付属以外の電源ケーブルをご使用になる場合には 電源ケーブルの項 (p.5) をご覧ください。結線が完了しましたら、リアパネルのスイッチをオン（ **I** ）にします。
・**Standby**（スタンドバイ）ボタンを押します。数秒お待ちください。その間に本機はセルフテストを行います。ボタンがブルーになっている間は、本機がブートアップしている状態です。数秒後、ブルーのライトは消え、ディスプレイに "**Player**", "**Welcome**" と表示され、次に "**Reading**" となります。ブートアップの後ボタンはグリーンに点灯し、ディスクが挿入されていないことを示します。本機は **No Disk** と表示します。ディスクが挿入されている場合には以下の表示になります。

CD	ボタンは赤に点灯します。本機は "**CDDA**" と表示し、次に "**Stopped**" となります。**Play** ボタンを押し演奏がスタートします。 読み取りまでに 20 秒前後かかります。これは CD フォーマットからはずれている CCCD(コピーコントロール CD)があるためです。この CCCD は TOC に関して操作したり、変更されていたり、または存在しない物もあります。そのため本機は全てのディスクを読み込むために TOC を探さず、各トラックのデータを最初から読み取り演奏可能にします。この方法は読み取りの時間が若干かかりますが、ほとんどのディスクを読み取ることが出来るのが利点です。
SACD	ボタンは紫に点灯します。本機は "**SACD**" と表示し、次に "**Stopped**" となります。**Play** ボタンを押し演奏がスタートします。 約 15 秒の読み取りで演奏可能になります。
HYBRID	ハイブリッドディスクの場合は SACD 面を演奏します。ボタンは紫に点灯します。本機は "**SACD**" と表示し、自動的に演奏がスタートします。 約 15 秒の読み取りで演奏可能になります。

注意:ハイブリッドディスクの場合、ディスクを挿入しトレイを閉じますと、自動的に再生されます。

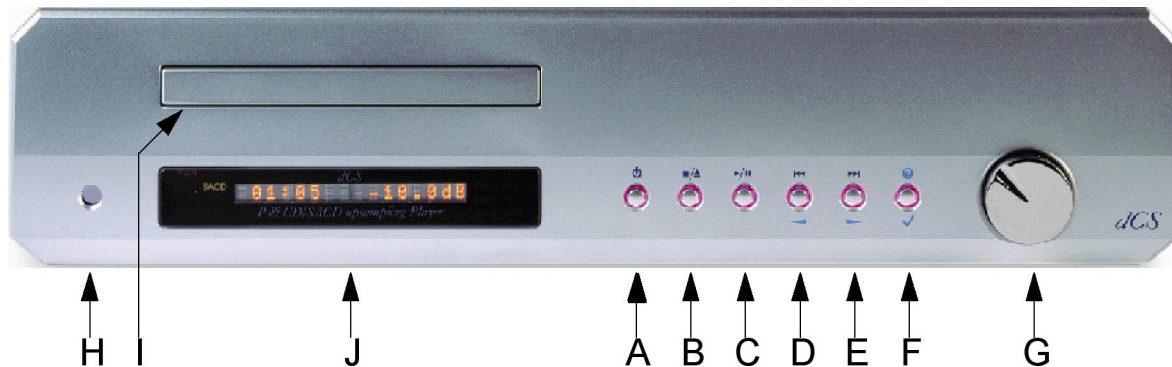
・本機またはプリアンプのボリュームが低いレベルであることをご確認ください。

ステップ5ーディスクを挿入し、演奏する

・**Stop/Eject** ボタンを押します。ディスプレイは **Opening** と表示し、トレイが開きます。開くとディスプレイは **Open** となります。
・ディスクをトレイに挿入し **Stop/Eject** ボタンをもう一度押します。ディスプレイは **Closing** と表示し、次に **Reading** と表示します。本機はこの間、CD か SACD かを読み取ります。**CD**、**SACD** どちらかのインジケーターが点灯します。ハイブリッドディスクの場合、初期設定で SACD レイヤーが読み取られる設定です。ボタンのライトの色は CD であれば赤、SACD であれば紫に点灯します。
・**Play/Pause** ボタンを押します。お聴きのボリュームレベルに合わせ、音楽が演奏されます。
・演奏中に **Play/Pause** ボタンを押すことによって、ポーズになります。再度演奏に戻すにはもう一度押します。
・トラックをスキップ、戻す場合には **Next Track**、**Previous Track** ボタンを押します。
・演奏を止めるには **Stop/Eject** ボタンを押します。もう一度押すとトレイが開きます。

ディスクがトレイに入ったまま出てこない場合：
読み込めないディスクを挿入した場合にはあわてずに。（DVD や、CD の天地を逆に乗せた場合）本機は **Reading** と表示し、約 40 秒読み取りを試みます。ディスプレイが **No Disk** と表示されるまでお待ちください。その段階で、**Stop/Eject** ボタンを押します。

ハードウェアーコントロールと接続

フロントパネル

A	スタンドバイボタン
B	ストップ／イジェクトボタン
C	プレイ／ポーズボタン
D	前トラック／メニューステップバックボタン
E	次トラック／メニューステップボタン
F	メニューセレクトボタン
G	ロータリーコントロールノブ
H	リモートセンサー
I	SACD/CD トレイ
J	メインディスプレイ

A　スタンドバイボタン（Standby）

・パワーアップまたはスイッチオフは、スタンドバイボタンによって行います。

・ 演奏を終了した場合にはスタンドバイボタンを押し、本機がスタンドバイモードになるようにします。スタンドバイボタンは赤く点灯し、他のボタンは消えます。

・ 完全にスイッチオフする場合には、スタンドバイボタンを数秒押し続け、ボタンがライラックに点灯します。その時点でボタンから指を話します。再びスイッチオンにするには 10 秒はお待ちください。

B　ストップ／イジェクトボタン（Stop/Eject） ■ / ⏏

・ディスクがトレイに載っていない場合、または、ディスクが演奏を終了した場合、このボタンによってトレイが開きます。

・トレイが開いたら、このボタンを押すことによってトレイを閉めることができます。

・ディスクが演奏しているときにこのボタンによって演奏を停止します。

C　プレイ／ポーズボタン（Play/Pause） ▶ / ❚❚

・ディスクが挿入されている場合、このボタンによって演奏を開始します。

・ボタンを押すことによってポーズになり、もう一度押すことによって演奏を続けます。

D　前トラック／メニューステップバックボタン（**Previous Track/Menu Stebak**） ⏮ / ◀

・このボタンによってトラックが戻ります。

・ 演奏中の場合、演奏トラックの冒頭部分に戻ります。もう一度押すとその前のトラックの冒頭部分になります。トラックを選択する場合には、数字のトラックに進行しますのでリモートコントロールの数字ボタンによって決定されることを推奨致します。

・メニューが開かれている場合には、メニューページを戻します。

E　次トラック／メニューステップボタン（**Next Track/Menu Step Forward**） ⏭ / ▶

・次のトラックに進む場合に押します。

・メニューが開かれている場合には、メニューページを進めます。

F　メニュー／セレクトボタン（**Menu/Select**） **？ / ✓**

・このボタンによってメニューを開き、変更、選択などのメニューセッティングを行います。

・ メニューボタンが押されている場合、メニューボタン、メニューステップバック、、メニューステップボタンのみがブルーに点灯し、他のボタンのライトは消えています。

G　ロータリーコントロール（**Rotary Control**）

・ボリュームのアップダウンに使用します。

・メニューが開いている場合には、ロータリーコントロールによってメニューを進行、逆進することができます。

・バランスオプションが選択されている場合には、バランスを変更します。

H　リモートコントロールセンサー（**Remote Control Sensor**）

赤外線リモートのレシーバーで、トランスミッターからの信号を直接受けます。

I　SACD CD トレイ（**SACD/CD Tray**）

本機が作動状態でトレイが開いているときに、スタンドバイボタンを押すことによりトレイは閉まり、本機は自動的にスタンドバイモードに入ります。

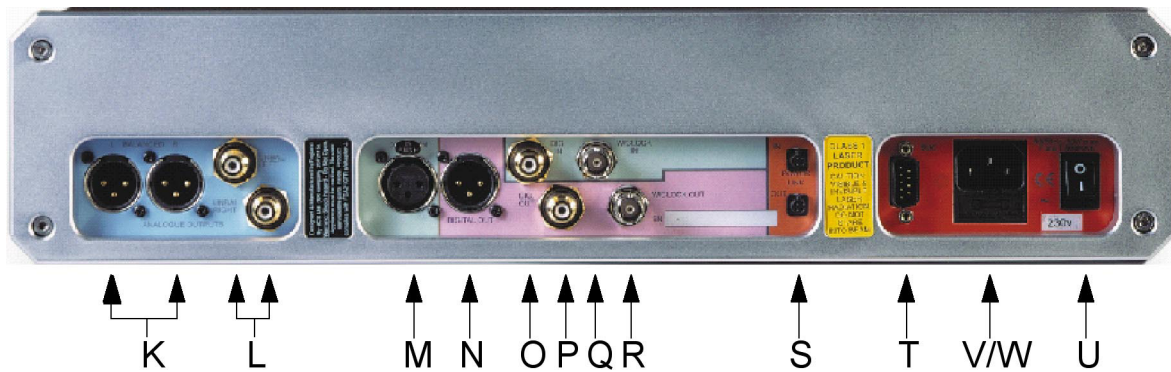
J　メインディスプレイ（**Main Display**）

メインディスプレイは本機の作動状態を表示します。

・ディスク演奏時にはトラック時間、ボリュームセッティングを表示します。

・チャンネルバランスを調整している間、トラック時間と L/R バランスセッティングを表示します。

・メニューをアクセスしているときは、メニューオプションが表示されます。

リアパネル

K　　バランスアナログ出力（XLR）

L　　アンバランスアナログ出力（RCA）

M　　AES　デジタル入力（XLR）

N　　AES　デジタル出力（XLR）

O　　SPDIF　デジタル入力（RCA）

P　　SPDIF　デジタル出力（RCA）

Q　　ワードクロックデジタル入力

R　　ワードクロックデジタル出力

S　　パワーリンク　入出力

T　　テストコネクタ（RS232）

V　　メインヒューズホルダー

W　　電源入力コネクタ

U　　電源スイッチ

重要：デジタル入力は現在のソフトウェアバージョンでは使用できません。

メニュー

メニューはメニューは様々な機能の設定時に開きます。また、新しいバージョンの新機能へのソフトウェアによるアップグレードを行います。

メニューの使用

メニューは3つのボタンによって操作します。

・メニューボタンはメニューを開き、メニューが開いているときは選択決定ボタンとなります。
・ステップボタンはメニューページを順に進めていきます。
・ステップバックボタンはメニューページを戻します。

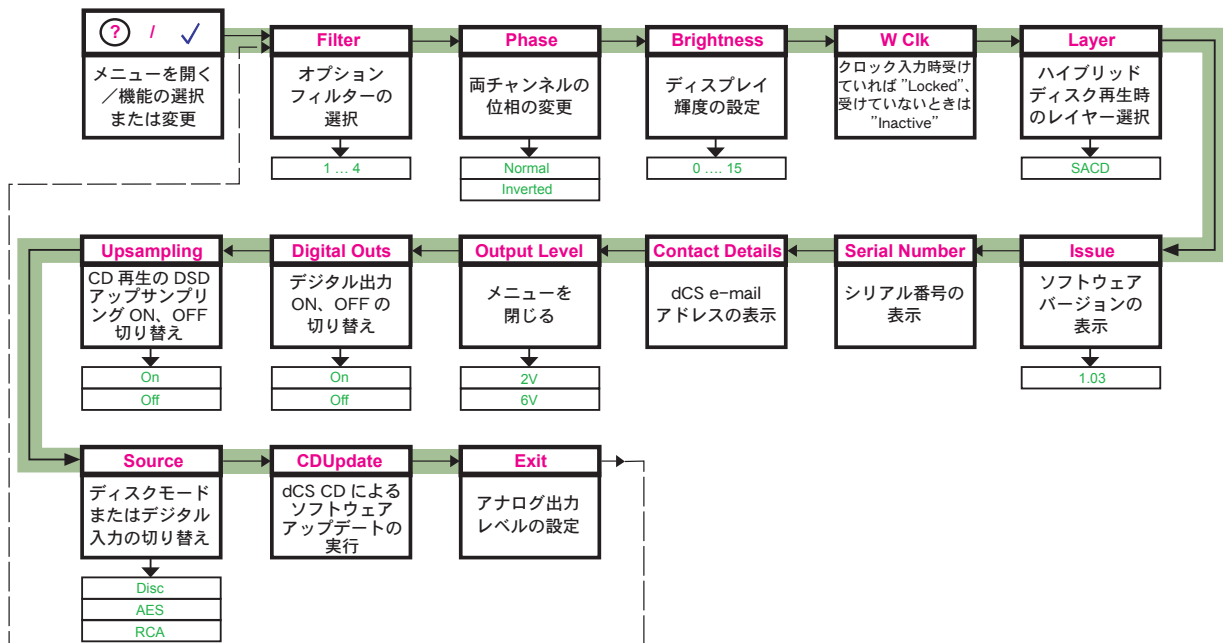
メニューボタンが押されたときは、メニュー、メニューステップ、ページステップバックボタンの3つがブルーに点灯します。

ロータリーコントロールによって、メニューページをめくることができます。特定のメニューページにはジャンプできませんので、ロータリーコントロールを廻していくか、連続してメニューステップ、ステップバックボタンを押し続けて希望のメニューページに進みます。

メニューページを閉じる2つの方法

・ステップボタンをディスプレイが **Exit** と表示するまで押して、その後セレクトボタンを押します。
・メニューのタイムアウトまで約5秒待ちます。本機は通常の動作に戻ります。

メニュー順序

次の説明はメニュープログラムの順序を示します。

Filter – フィルターの選択

本機には4つのフィルターが選択できます。

ご自身の特定の機器や環境に見合うべく、フィルターをいろいろと実験なさることをお勧め致します。特定の用途にどのフィルターがベストであるということはありません。

ディスクを演奏しているときに、フィルターオプションをいろいろ選ぶことができ、演奏中のディスクにあったものを選択することができます。

フィルターを選択するにはメニューボタンを押し、ステップ、ステップバックボタンによってフィルターが表示されるまで進みます。フィルターを変更するにはセレクトボタンを押し、スクロールさせます。

Filter 1	:	フルバンド DSD フィルターです。
Filter 2,3	:	DSD 帯域再生について好ましくないアンプ、例えば帯域が狭く音質的に個のも悪しい再生耐えられない場合などに使用するフィルターです。（近代的なアンプの場合には Filter1 が好ましく、古い大出力アンプ使用時に試してみるとよい結果になるかもしれません。）
Filter 4	:	測定のみに使用するフィルターです。

Phase – フェーズ（位相）

絶対位相の選択に使用します。両チャンネルのフェーズを変更します。

Brightness – ディスプレイの輝度

メインディスプレイの輝度を調節し、輝度は 15 ～0までの 16 段階です。0 は何か操作するまでディスプレイは消灯します。15 は最高輝度です。
ボタン周りのライトはディスプレイが 0 輝度の時には消えます。1 ～ 15 の輝度の設定では点灯します。

Word Clock (WClk) – ディスプレイの輝度

Word Clock Input（ワードクロック入力）の状態を表示します。ディスプレイが **WClk:Locked** と表示しているときは外部ワードクロックをロックし、**WClk:Inactive** と表示しているときはロックしていないことを表します。

Layer – CD ／ SACD レイヤー

ハイブリッドディスクは2層になっています。ハイブリッドディスクを演奏の場合、演奏する層を選択します。メカが異なる層を決定するには少し時間がかかります。工場出荷設定ではハイブリッドは SACD 層を選択するようになっています。

重要：現在のバージョンではこのレイヤー選択機能は機能せず、SACD 層が選択されます。

Issue – ソフトウェアバージョンの表示

本機のソフトウェアのバージョンを表示します。ソフトウェアアップグレード、または機器が異常動作を起こしたときに必要な機能です。

Serial – ユニットのシリアル番号

ハードウェア構成を含むシリアル番号を表示します。これはご使用の機器のソフトウェアをアップグレードするときに dCS にて必要な番号です。

Contact – 連絡情報

dCS e メールアドレスとホームページ URL を表示します。

Output Level – 出力レベル

出力レベルはシステムにあったセッティングにしてください。6V、2V の選択ができます。この差は 9.5dB です。

本機のボリュームコントロールを -20.0dB 以下にはしない方が通常良い結果が得られます。まず 2V からスタートし、必要なら 6V に上げていくようにお勧めします。この出力レベルを切り替えるときには、必ずプリアンプのボリュームをしぼってください。その後最適な音量に戻すことをお勧めします。

Digital Output – デジタル出力

デジタル出力は **Digital** & **W/Clock Output**（デジタル出力とワードクロック出力）の Off と On を切り替えます。

Upsampling– アップサンプリング

CD 再生時 DSD アップサンプリングの Off と On を切り替えます。

Source– ソース

このメニューは外部デジタルソースからのデジタル信号をアナログ信号に変換します。
以下3種類のセッティングがあります。

- Disc: 本機は CD/SACD プレーヤーとして機能します。
- AES: 本機は 32、44.4, 48kS/s データを **AES** 入力から受け取ります。
- RCA: 本機は 32、44.4, 48kS/s データを **RCA** 入力から受け取ります。

重要：本機が AES または RCA にセットされているとき、CD のオペレーションは行われません。
CD トレイを開くためには Source（ソースページ）を Disc と設定する必要があります。
重要：この DAC は、外部入力のアップサンプルは行いません。

外部入力が使用されている場合、メニューから以下のページが消えます。
Filter、**WClk**、**Layer**、**Digital Outputs**、**Upsampling**、**CD Update**

CD Update – ソフトウェアアップデート

dCS から供給される CD により、ソフトウェアをアップデートすることができます。
アップデートCDが用意されたときに詳細をお知らせ致します。

Exit – メニューの終了

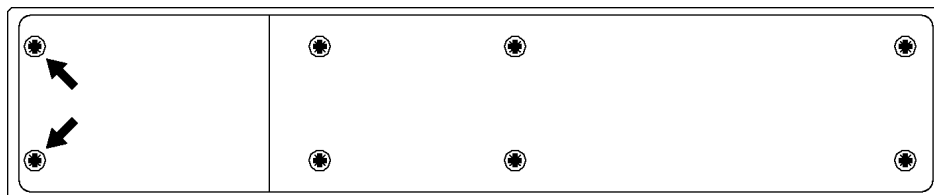
このページでメニューを終了し、ディスプレイは通常の表示に変わります。

リモートコントローラー

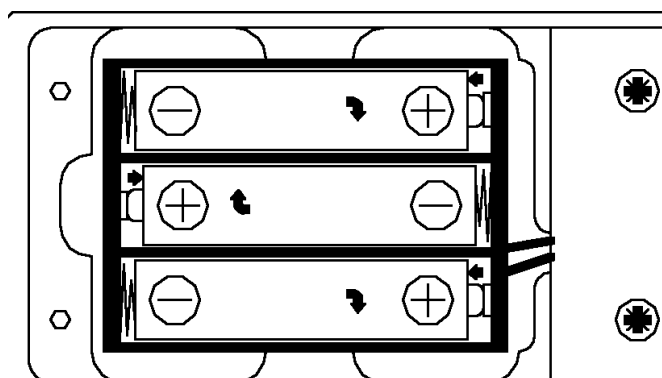
リモートコントローラーの電池交換

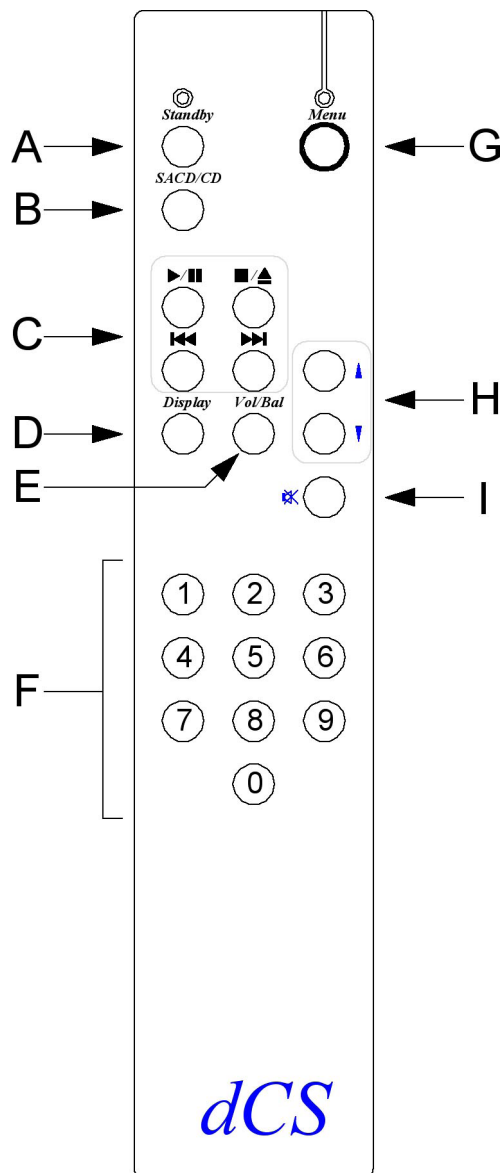
電池を交換する際は、適切なもの（単四アルカリ電池）と交換してください。

電池カバーをはずす

リモートコントローラーを裏返し、出荷時に同梱されている付属のドライバーを使用して、カバーを留めている 2 つのネジを丁寧にはずします。このときネジ穴にダメージを与える可能性がありますので、通常のプラスドライバーは決して使用しないでください。

電池の + 側をバネの方へ押し、外側に引き出してバッテリーボックスから使用し終わった電池を取り出します。取り出しにくい場合は、小さな鍵あるいはドライバーを使うと簡単に取り出せます。

新しい電池を入れる

フラットな − 側をホルダーのバネについた方へ押し、スロットに正しく入れます。極性については電池ホルダーに表示してあります。常に 3 このバッテリー全てを同時に交換するようにしてください。

電池 3 個を電池ホルダーに装着したら、電池ボックスにカバーをはめ込み、カバーのネジ穴がくぼんでいる面が外側になっていることを確認し、2 つのネジで締めます。このとき強く締めすぎないようにご注意下さい。

リモートコントローラーを使用する

A　スタンドバイボタン（**Standby**）

通常スタンドバイボタンを押すと本機をスタンドバイモードに設定します。再度押すと通常の稼動状態に戻ります。

B　SACD/CD ボタン（**SACD/CD**）

ハイブリッドディスクを再生するとき、このボタンを押して SACD レイヤーあるいは通常の CD レイヤーのいずれかを選択します。

重要：現在のバージョンではこのレイヤー選択機能は機能せず、SACD 層が選択されます。

C　プレーヤーコントロール

プレイ／ポーズ、ストップ／イジェクト、前トラック、次トラックの各ボタンの操作はフロントパネルの操作と同じです。

前トラック、次トラックボタンは早送り、早戻しと兼用となります。

D　ディスプレイボタン（**Display**）
ディスプレイボタンを押すと、約5秒間演奏しているトラック番号を表示し、その後トラック時間に戻ります。

E　ボリューム／バランスボタン（**Vol/Bal**）
ボリュームモードとバランスモードを切り替えます。

F　0～9ボタン（**0～9**）
トラック番号を選択するのに使用します。トラック番号を選択する場合は、このテンキーパッドを使用することをお勧め致します。

G　メニューボタン（**menu**）
メニューを開きます。↑/↓ボタンを使用してメニューをスクロールし、再度メニューボタンを押すとその機能を選択します。操作をしないと5秒後元に戻ります。

H　上下ボタン（↑/↓）
ボリューム、バランス調整や、メニューを開いたときのスクロールに使用します。

I　ミュートボタン（**Mute**）
ボタンを押すとアナログ出力のミュートがかかり、再度押すとミュートが解除されます。

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

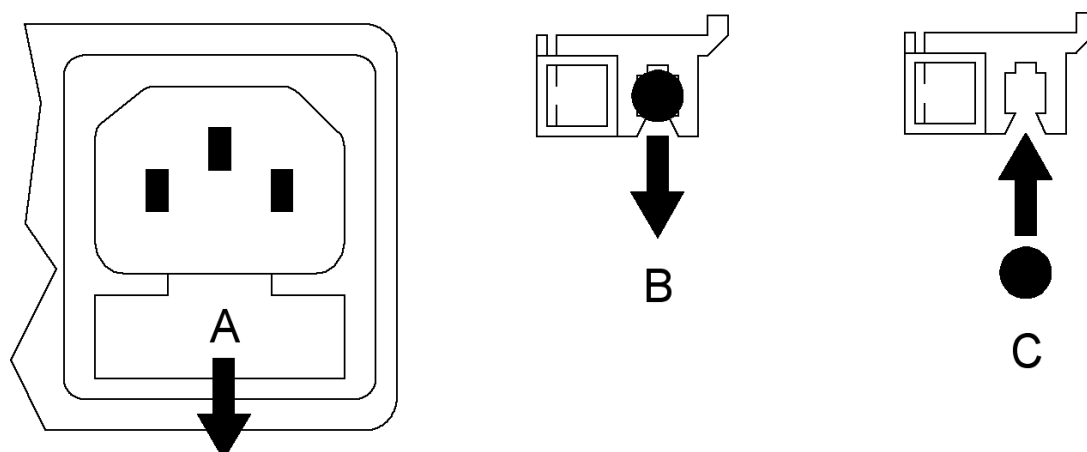
電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A T HRC タイプ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブを引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズを押し出し、新しいものに交換してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に 2 個同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証について

保証期間はお買い上げより1年です。保証期間内に正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

同封の保証登録カードに必要事項をご記入の上、ご購入後10日以内にご返送ください。折り返し当社発行の保証書をお送りいたします。規定通りの手続きをなさらないと、保証期間内でも有償修理となる恐れがありますので、ご注意ください。なお、「保証書」は製品無償修理の際、必ず必要となりますので、お客様ご自身で記載内容をご確認の上、大切に保存してください。

故障と思われる場合にはこの取扱説明書をよくお読みになり、再度接続と各部の動作、点検をしていただき、なお異常のある場合にはお買い求めの販売店、又は当社サービス課までご連絡いただき、修理をご依頼ください。

保証の対象外となる事項

・誤用による故障、破損
・本製品の使用条件について、この取扱説明書に沿ってご使用にならなかった場合
・当社、もしくはメーカー以外の修理、改造がなされている場合
・認可されていない改造が行われている場合
・本製品が適切に梱包されない状態で返送された場合
・本製品がトランスポート輸送用ネジを装着せずに輸送、返送された場合

もし本製品ご使用中にトラブルが発生したと思われる場合には、当社、もしくは販売店に直ちにご連絡をお願い致します。その場合、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題事項の詳細をお知らせください。本機を当社にお送りいただく場合、オリジナルの梱包材料（フライトケース）をご使用ください。万一、フライトケースまたはトランスポート輸送ネジを紛失なさった場合は当社にご連絡ください。適切な処置をいたします。
保証期間中は修理代金は無償です。

作動条件

・AC 電圧については 100V ±10%以内であること。
・電力周波数は 50 〜 60 サイクル以内であること。
・使用環境での温度は 0℃〜 40℃にあること。
・ 本製品を熱源に近づけて設置しないこと。熱源とは、例えば、暖房機、エアダクト、パワーアンプ、直射日光などを言います。
・私たち人間が快適な環境が本製品にとっても快適な環境と申せます。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイスビル 1F

TEL : 03-6225-2777（代表）

03-6225-2779（サービス課）

FAX : 03-6225-2778

ホームページ : http://www.taiyo-international.com

06-12-2006